

**24 式内 高瀬神社** Shikinaai Takase-Jinja (Shrine) 시카나이 다카세 신사

この神社は、延喜式内社として津嶋部神社と並んで守口市内の古社です。

天正年間(1573~1592)に織田・三好の兵火で社殿は焼かれたものの、その後再建され、江戸時代中期頃に建てられたのが現在の社殿です。

江戸時代には、神殿その他すべて備わった社で、八幡宮とも呼ばれていました。

**25 高瀬川跡** Takasegawa-Ato (River Remnants) 다카세가와 강 유적터

高瀬川は古歌にもうたわれ、平安時代には「高瀬の淀」、江戸時代には「守口川」とも呼ばれていました。

この高瀬川には、僧基がかけたと思われる橋があり、その橋の遺物と考えられる橋杭の石柱が出土したことから、相当大きな川で、かつては淀川の主流であったと伝えられています。

**26 常称寺** Joshoji (Temple) 조소지 절

現在、知恩院の末寺ですが、昔は高瀬山華嚴院常称寺と称し、華嚴高瀬寺の奥院と伝えられています。

この寺には二巻の縁起を蔵し、一つは常称寺の縁起、もう一つは寺に伝わる舎利の由緒について記録されています。

常称寺の縁起は、「河洲茨田郡十七ヶ所之内小高瀬郷一本寺高瀬山華嚴院常称寺縁起」と称し、行基開創になる高瀬寺の縁起(室町時代の公卿三条西実隆日記「実隆公記」から)を録しており、舎利記は「華嚴院常称寺舎利記」と題し、縁起よりもやや細手の文字で、当時の舎利の来歴と感応のことについて記されており、共に奥書から元和4年(1618)のものとなり、江戸時代初期の資料として貴重なものです。

**27 存覚上人旧跡(光明寺)** Zonkaku-Shonin-Kyuseki Remnants (Komyoji Temple) 존카쿠 스님 유적터 (고묘지 절)

存覚上人は、本願寺三世覚如上人の長男で、観応元年(1350)に当地方を教化したとき、廃寺同様になっていた当寺を再興し、ここを起点として教をを広めました。この光明寺は、当地方で最古の浄土真宗寺院といわれています。

**28 唯称寺** Yuishoji (Temple) 유이쇼지 절

東本願寺大谷派で、本尊の阿弥陀如来立像は室町時代末期あるいは江戸時代初期の彫像とみられ、市内の真宗寺院では最も早く木仏の本尊を安置した寺の一つといわれています。

現本堂の建立については、寛政7年(1795)寄進の喚鐘の事を記した木札があることなどから、この時期をあまり遡らない頃と推定されています。当初は、葺葺の屋根で外観が民家と変わらない集会所的な建物でしたが、天明の時代に至り(19世紀中頃)上位の真宗寺院内陣正面の構えを取り入れ、真宗の本堂としての形に整えられました。

この本堂は、18世紀後半頃の新しい建築になるものといえ、農民に密着した村道場の古い形態を残した貴重な建物です。

**29 天乃神社** Amano-Jinja (Shrine) 아마노 신사

祭神は素戔嗚尊・菅原別尊・菅原道真公であり、天乃は天農とも書かれ、江戸時代には天神社・天神宮と呼ばれていました。

寛文10年(1670)に当地方を領有していた竹内門主親王によって、祭神である菅原道真公の木像を授けられ、社殿を改築したといわれています。

現在の本殿に安置されている旧本殿は、柿葺の一間社春日造で向拝に畳敷2箇所を並べた類例のない形式を持つなど江戸時代初期を下らない時期の特徴がよく示されている貴重な建造物です。

**30 喜左衛門記念碑・伝和泉式部供養塔** Kizaemon Monument & Den Izumi Shikibu Memorial Tower 기जे몬 기념비·이즈미시키후 공양탑 전승지

旧寺方荘をはじめとする12ヵ村一帯は、排水の便が悪く村民は常に悪水に悩まされていました。

村民は、たびたびこの地に樋を設けることを幕府に願い出しましたが、認められなかったため、南寺方村の庄屋喜左衛門は寛永11年(1634)について意を決し、適地に樋を築き水害を一掃しました。

樋はそのまま置かれましたが、喜左衛門は幕府を無視したとして翌年3月15日に処刑されました。明治15年(1882)、12ヵ村の人たちは喜左衛門を慕ってここに碑を建てました。

上の写真の石造宝篋印塔は、和泉式部の供養塔と伝えられています。この宝篋印塔は、18世紀後半頃の新しい建築になるものといえ、農民に密着した村道場の古い形態を残した貴重な建物です。

**31 寺方提灯踊り** Terakatachouchin-Odori (Dance) 데라카타 등불춤

発祥年代は定かではありませんが、本市を代表する郷土芸能です。昔は、この踊りは一子相伝で、門外不出といわれ、ひそかに引き継がれてきました。しかし、文化・文政の頃(1804~1830)から盛んとなり、河内首領寺方節にあわせ太鼓を使ったはやしと、片手に提灯をもった独特な踊りは他に類のない珍しいものです。

平成12年に市の無形民俗文化財に指定しました。

この提灯踊りを後世に伝えるため、地元の保存会により、毎年7月に守口市駅前にて踊り継がれています。

**17 盛泉寺** Josenji (Temple) 조센지 절

東本願寺末で、教如上人を開基として、慶長11年(1606)に創建され、東の御堂さん、東御坊さんと呼ばれています。

本堂は、西御坊の難宗寺と同様、元和元年(1615)の兵火により焼失し、更に度重なる風水害を受けており、天保6年(1835)に再建されたのが現在の本堂です。

**18 難宗寺** Nanshiji (Temple) 난슈지 절

文明7年(1475)吉崎を退出し、枚方市出口に光善寺を創建した通如上人が、文明9年(1477)に創立した守口御坊が始まりと伝えられています。慶長16年(1611)には本願寺掛所に昇格し、西御坊と呼ばれるようになりました。元和元年(1615)兵火により焼失し、寛永13年(1636)に再建されましたが、その後、たびたびの風水害などで朽廃したため、他寺(延宝7年(1679)建立の石清水八幡宮護国寺仮堂)の古材を再用し、文化7年(1810)に再建されたのが現在の本堂です。

境内には、樹齢約500年、木の高さ約25m、直径約1.5m、枝張約15mの大いちょうがあり、昭和50年(1975)に大阪府の天然記念物に指定されました。

**19 守口宿本陣跡** Moriguchi Shukuhonjin-Ato (Remnants) 역참마을 모리구치슈쿠 숙소 유적터

本陣とは、江戸時代の宿駅で、大名・幕府役人・勅使・宮門跡等が宿泊した公館の宿舎で、本陣のあったところは電田通1丁目付近です。

ここで気がつくことは、道路の幅が非常に広いことで、守口宿の街道の幅は2間半(約4.6m)と定められていたましたが、ここは15m余りもあります。それはこの通りで人や荷物の継立が行われたことにより、道幅が広がっているのです。

**20 大塩平八郎ゆかりの書院跡** Oshio Heihachiro Cottage Remnants 오시오 헤이하치로와 유서깊은 서원

この書院跡は、江戸時代に守口町の農豪白井家があり、そこへ当時の陽明学者で、大坂東町奉行所の元与力大塩平八郎が、守口近郷の農民に陽明学を講義したところです。当主の白井孝右衛門は大塩の私塾洗心洞の有力門人として経済的な支援を行い、天保8年(1837)2月19日の「大坂騒動」(またの名を「大塩の乱」)に参加しましたが、わずか1日で鎮圧され、後に一家には処罰が下されました。(写真はかつての書院の様子)

**21 文禄堤** Bunroku-Tsutsumi (embankment) 분로쿠 제방

この堤は、文禄3年(1594)に伏見城を築いた豊臣秀吉が、京都・大坂を結ぶ最短陸路として、毛利輝元・小早川隆景・吉川広家の三家に命じ、文禄5年(1596)に整備させたものです。これが京街道(又は大坂街道)で、後に東海道と呼ばれるようになりました。

この堤の長さは約27kmといわれていますが、度重なる淀川の改修等で堤の多くは姿を消しており、ここ守口にのみ面影をしのぶことができる貴重な文化財です。

**22 清沢寺** Seitakuji (Temple) 세이타쿠지 절

真宗東本願寺の末寺で、通如上人の第10男第23番目の子息奥橋上人が、永禄年間(1588~)に当地方を教化中に当寺の荒廃を聞き、これを再興して土居坊と称し、その後、上人の姓「清沢」を採って清沢寺と改称されました。

当寺の宝物のなかには、実悟上人の肖像画が目密な上質の絹に描かれており、絵絹の描法からして江戸時代の初期頃の作品かと推定され、守口市にゆかりの深い高僧の肖像画として、また、数少ない実悟上人の画像として特筆に値する資料です。

**23 守居神社** Morii-Jinja (Shrine) 모리이 신사

社記によると延喜18年(918)淀川洪水の時、西南石礫の淵で「我天道神也、我を祀れと振鈴の声でお告げがあった」ので、「土を居て」お祀りしたのが始まりと伝えられ、祭神は、素戔嗚尊(牛頭天王または三輪明神・日吉権現・新羅明神)・別雷命と記されています。社名は、守口と土居の各一文字を用いて「守居」と呼称されたと伝えられています。

当社には、昭和56年(1981)に大阪府指定有形文化財となった守居神社刀があります。この刀は室(中子)に「備中守備康廣」の銘があり、刀匠一派の近江石堂派の支流で、江戸時代の寛文年間(1661~1673)に大坂に出て作刀し、大阪石堂派の祖となった康廣の作品です。刀文は、拵き幅の広い丁字乱れが特色で、康廣の代表作の一つに数えられています。

また、当社には宝永7年(1710)の銘をもつ五裂狗(一対)が奉納されており、現時点では府下陶磁・瓦製の狗犬としては最古のもので、平成12年に市の有形文化財に指定しました。

# 史跡散策モデルコース

※時間・距離はおおよその目安です。なお、見学時間は含んでいません。

**I 守口市役所周辺コース (約3.4km)**

- 京阪電鉄「守口市駅」スタート 3分
- 文禄堤 7分
- 守口市役所 4分
- 江戸川乱歩住居跡 9分
- 一里塚跡 3分
- 瓶橋の跡 3分
- 盛泉寺 2分
- 難宗寺 1分
- 守口宿本陣跡 1分
- 大塩平八郎ゆかりの書院跡 15分 (奈良街道沿い)
- 大正天皇御下車跡 6分
- パナソニックミュージアム 松下幸之助歴史館 2分
- 京阪電鉄「西三荘駅」ゴール

**II 土居・高瀬・大枝・橋波周辺コース (約3.5km)**

- 京阪電鉄「西三荘駅」スタート 7分
- 天乃神社 5分
- 守口市現代南画美術館 13分
- 唯称寺 10分
- 式内 高瀬神社 1分
- 高瀬川跡 3分
- 常称寺 15分
- 京阪電鉄「土居駅」ゴール

**III もりぐち歴史館「旧中西家住宅」周辺コース (約8km)**

- 京阪電鉄「門真市駅」・大阪モノレール「門真市駅」スタート 7分
- 門真市立歴史資料館(門真市域) 20分
- 弥治右衛門記念碑 8分
- 藤田天社宮 15分
- 大念寺 15分
- もりぐち歴史館「旧中西家住宅」 4分
- 妙楽寺 18分
- 津嶋部神社 1分
- 京阪バス「宮垣内」停留所 ゴール

**IV 西三荘ゆとり道・寺方周辺コース (約6km)**

- 京阪電鉄「西三荘駅」スタート 7分
- 西三荘ゆとり道 25分
- 産須那神社 8分
- 喜左衛門記念碑・伝和泉式部供養塔 13分
- 西三荘ゆとり道 4分
- 鶴見緑地 13分
- 咲くやこの花館 12分
- 大阪市営地下鉄「鶴見緑地駅」または大阪市営バス「鶴見緑地」停留所 ゴール

**V 佐太・大日周辺コース (約5.9km)**

- 大阪市営地下鉄谷町線「大日駅」・大阪モノレール「大日駅」スタート 5分
- 生涯学習情報センター(ムーブ21) 4分
- 白山神社 2分
- 教応寺 3分
- 藤之森碑 3分
- 京街道(淀川堤防上) 12分
- 佐太樋門跡 7分
- 佐太渡し場石碑 1分
- 佐太天神宮 1分
- 菅相寺 2分
- 来迎寺 1分
- 佐太陣屋跡 3分
- 府道京都守口線沿い 26分
- 大阪市営地下鉄谷町線「大日駅」・大阪モノレール「大日駅」ゴール

**VI 八雲周辺コース (約5km)**

- 大阪市営地下鉄谷町線「大日駅」・大阪モノレール「大日駅」スタート 11分
- 正覚寺 2分
- 八坂壇神社 8分
- 正迎寺 8分
- 光明寺 1分
- 八雲神社 6分
- 花園かん 6分
- 専教寺 12分
- 御立野碑・五箇樋跡 12分
- 大阪市営地下鉄谷町線「守口」ゴール

**32 遺跡** Relics 유적

**ア 大庭北遺跡 (佐太東町2丁目・金田町2丁目周辺)**

古墳時代から中世にわたる複合遺跡です。6世紀後半のものと考えられる古墳をはじめ、平安時代後期の掘立建物、鎌倉時代の井戸、溝、里道が発見されています。さらに、同時期の遺物も多数出土し、なかでも【正和4年(1315)】の年号をもつ木簡は末尾に花押のあるものとしては国内で最古の例として、また「美濃」の刻印をもつ須恵器は大阪府下で初めての出土例として、それぞれ注目されました。

**イ 八雲遺跡 (八雲北町1・2丁目周辺)**

淀川左岸に位置する縄文時代~近世に至る大複合遺跡で、縄文時代晩期の滋賀里式土器、奈良時代の人面壺土器、近世のくわんか茶碗など多数の遺物が出土しています。

また、昭和62年(1987)の発掘調査の結果、畿内地域で初めての弥生時代の玉作り工房と考えられる建物跡が発見され、鉄石英やメノウ製の石ノミ、細石刃、細石核等珍しい遺物が多数出土しています。

**ウ 柳遺跡 (佐太東町1丁目周辺)**

古墳時代から近世に至る複合遺跡で、3基の古墳をはじめ、土坑墓や溝などが発見されています。通常、古墳は高台に造られています。3.6mという低湿地から見つかった例として注目されました。

このうち6世紀初頭のものと考えられる全長約37mの帆立貝式前方後円墳の周溝内からは、円筒埴輪・朝顔形埴輪のほか、国内で2例目の出土となった珍しい牛形埴輪をはじめ、人物・鹿・猪・馬・家などの形象埴輪が多数出土しています。また、埴輪とともに「首輪をした犬」の装飾を施した須恵器壺なども出土しており、円筒・形象埴輪群は平成10年に市の有形文化財に指定されました。

**エ 八雲東遺跡 (八雲東町1丁目周辺)**

縄文時代~近世に至る遺物が出土しています。ことに瓦器院や土師血等、中世の遺物が多量に出土しています。また、慶長元年(1596)の伏見地震の際に生じたと考えられる、液状化した層と噴砂が明瞭に残っており、各方面から注目されました。

**オ 橋波東遺跡 (橋波東町1丁目周辺)**

弥生時代の埴の破片、平安時代の墨書土師器、中世の下駄やしゃもじなど、弥生時代~近世に至る遺物が出土しています。

**カ 高瀬寺跡 (馬場町2丁目周辺)**

行基が建立した七堂伽藍を備えた寺院跡と伝えられています。詳細は不明です。大正7~8年(1918~1919)頃に奈良時代後期の複弁蓮華文野丸瓦をはじめ、多数の瓦が出土したことから、その存在が推定できます。

同寺院に関連する遺構はまだ発見されていませんが、平成4~5年(1992~1993)及び平成9年(1997)の発掘調査の際、中世の井戸や柱穴、溝、日常雑器が多数発見されたことから、付近一帯に中世の集落が存在していたと考えられます。また、古墳時代の流路から、残りの良い土師器や須恵器が出土しています。

**キ 長池町遺跡 (長池町周辺)**

弥生時代中期の縮描流水文壺・縮描直線文壺が出土しており、非常に美しくほぼ完全な形を保ったまま残っていることが珍しく、また貴重であることから平成23年に市指定有形文化財に指定されました。

さらに、平成4~5年及び平成9年の発掘調査の際、中世の遺構・遺物が多数出土しています。

**ク 馬場町遺跡 (馬場町1丁目周辺)**

古墳時代はそうが出土しています。また、平成4~5年及び平成9年の発掘調査の際、中世の遺構・遺物が多数出土しています。

**ケ 橋波西之町遺跡 (橋波西之町1丁目周辺)**

弥生土器の他、土師器・須恵器などが出土しています。

**コ 東光町2丁目遺跡 (東光町2丁目周辺)**

鎌倉時代の土師質羽釜が出土しており、井戸の跡かと考えられます。

**サ 文園町遺跡 (文園町・紅屋町周辺)**

古墳時代前期の土師器の二重口縁壺が出土しています。

**シ 文禄堤遺跡 (本町2丁目周辺)**

文禄5年(1596)に豊臣秀吉によって築かれた堤跡で、築堤遺構などが残ると考えられます。

**埋蔵文化財**

地下に遺物や遺構(生活痕など)が埋もれていると思われる地域を埋蔵文化財包蔵地といい、多くの遺跡などはこれに当たります。

埋蔵文化財は、あえて発掘するのではなく、現状のまま、つまり埋蔵されたままにしておくのが最も望ましい保護・保存になります。

一方、住宅を初めとする開発行為は、現在の私たちが生活していく上で、どうしても避けることのできない不可欠なものです。したがって、この区域内での開発をされる場合は、まず教育委員会に届出をしていただき、その規模・内容や過去の資料などをともに、教育委員会と開発者で対応を協議して、埋蔵文化財の保護と開発との調整に努めています。

上記に掲載しました市内主要文化財の選定及び説明文については、守口市文化財保護審議会において審議されたものです。表紙写真は東京国立博物館所蔵「五海通分間延絵図」より